

平成28年度 東京都立清瀬高等学校 経営報告

1 今年度の取組と今後の課題

(1) 進路指導の実績向上

①教科指導等

- ・年度当初に21回の教科会を予め設定し、計画的に実施することで、教科指導計画の着実な進行を図った。
- ・土曜授業18回、土曜講習15回実施し、生徒の学習時間を確保し、学力向上に努めた。特に、学年末考査後の土曜講習においては、特別講習と位置づけ、当該年度の学習を補う講座を設定するとともに、次年度の授業を円滑に進めていく準備を行った。
- ・夏期講習は、昨年より20%以上増加した58講座を開講し、参加生徒数も大幅に増加した。その一方、冬期講習については、暦の関係で参加生徒数及び講座数ともに伸び悩んだ。今後も、生徒が必要とする講習の内容や時期などを精査し、3年間を見通した講習計画を立てることが必要である。
- ・英数国の習熟度別授業を実施し、指導効果の向上を図れた。時間割上は制約もあるが、学力幅が大きい本校の生徒集団には必要かつ有効な方策である。
- ・6月から土曜日や定期考査直前の放課後に大学生による学習支援のチューターを配置した。定期考査直前は、利用生徒も多く一定の成果が上げられた。次年度に向け、生徒が利用しやすい時間帯に継続的配置し、生徒の学習習慣を定着させる取り組みを進めることが必要である。
- ・若手教員の研究授業を多くの教員が見学し、また、教員相互授業見学も前年度比30%増ののべ196回実施したことで、学校全体の授業力向上に寄与した。

②進路指導

- ・大学進学実績としては、GMARCH以上の現役合格者数が88名（前年度125名）に留まった。前年度から大幅減となった原因を調査し、次年度に向けた改善を行うことが必要である。
- ・「清瀬の進路指導」と言えるものを構築中であり、今年度の反省を踏まえ、一層の改善が必要である。さらに、生徒の進路実現に向けた「清瀬の教科指導」を整えることが課題である。
- ・進路分析会を昨年度に引き続き実施したが、より効率的かつ効果的な分析を行う工夫が今後も必要である。分析結果を教科指導及び進路指導に活かす方策を検討、実施することが課題である。
- ・7月、1年生全員がオープンキャンパスに参加し、早い段階から大学進学に対する意識を高めることができた。生徒の進路に対するモチベーションを維持し、日常の学校生活や家庭学習につなげていくことが必要である。

(2) 心と身体の健全育成

①部活動の推進

- ・生活指導部等が中心となって、部活動への加入促進を行った結果、96%という高い加入率を維持することができた。
- ・ソフトテニス部及び少林寺拳法部において、スポーツ特別強化校の指定を受け、両部の活動の充実を図るとともに、他の運動部活動の活性化にも好影響を与えた。
- ・多くの部活動が都大会へ進出するなど好成績を上げた。全国大会へはソフトテニス部、少林寺拳法部、ダンス部、写真部、美術部が進出を果たした。特に、少林寺拳法部においては、インターハイ優勝を果たすことができた。その他、ハンドボール部、野球部、男子硬式テニス部が都ベスト32以上の成果を上げた。
- ・複数の部活動が、中学校と合同練習を行うなど、地域連携を図れた。
- ・文化・スポーツ等特別推薦を男女ソフトテニス、女子バレーボール、野球、少林寺拳法で実施し、

部活動の活性化を図った。特別推薦での入学生徒の多くは、学業にも努力し、一定の成果をあげている。

②特別活動の推進

- ・体育大会、清高祭などの学校行事を生徒の委員会中心に実施できた。特に、文化祭においては、早い段階から準備を進め、前年度まで以上に盛り上がりのある文化祭を開催することができた。今年度の反省点を踏まえ、次年度以降、担当者が代わっても引き継げる資料と体制を整えることが今後の課題である。
- ・生徒会活動を活性化させ、これまで実施してきた特別支援学校との交流などを継続するとともに、生徒に対するアンケートを行うなど自主的活動が増加した。
- ・水曜日や土曜日の午後を活用し、1年生の奉仕活動や部活動を単位として、地域行事に参加したり、近隣施設の清掃活動などを行ったりした。
- ・引き続き、読書感想文コンクールや書評合戦に参加するなど、生徒の読書活動を推進してきた。生徒の読書活動定着に向けた取り組みを一層進めていくことが今後必要である。

③生活指導の充実

- ・学年及び生活指導部が中心となり、遅刻指導にあたったことで、年間遅刻延べ回数が1005回と、前年度よりも20%以上減少した。依然として、3年生2学期以降の遅刻数増加が顕著であり、対策が必要である。
- ・儀式、始業式、終業式等の学校行事において、毎回校歌を斉唱することにより、学校への帰属意識や生徒・教職員間の連帯意識を高めた。
- ・生活指導部が年に数回、朝の立ち番等で、服装指導を行ったことで、制服の着こなしは改善されてきた。今後も継続していくことが必要である。

④健康・安全の推進

- ・スクールカウンセラーによる1年生全員面接を1学期に実施し、心身の健康に課題のある生徒を早期に発見することができた。学級担任、養護教諭、スクールカウンセラーが緊密に連携し、生徒本人、保護者の相談に応じることができた。
- ・保健委員会がトイレの使用マナーに関する掲示を作成するなど、保健・環境・美化に関する取り組みを今まで以上に生徒が主体となって行う体制を整えることができた。
- ・老朽化した施設・備品の補修を引き続き行ってきた。不要物の撤去、廃棄を促進し、生徒の教育活動に活用できる場所を拡大した。

(3) 広報活動の充実

- ・昨年度3月から始めた新HPの運用を軌道に乗せることができた。部活動の大会実績などを積極的に更新してきたが、その他の部分も定期的な更新計画を立てることが課題である。
- ・総務部が中心となり、広報活動を推進し、学校説明会や文化祭などの年間来校者数が、7587名（前年度6465名）と大幅に増加した。夏季休業日の学校見学会では、依然として希望者全員を受け入れることが困難なため、改善策を考える必要がある。
- ・あじさいウィークや学校施設開放も無事実施でき、地域との交流も推進することができた。

(4) 学校経営について

- ・中学生向けの合同説明会に企画室職員も携わり、学校が一体となって広報活動に取り組むことができた。今後、企画室職員の学校経営参画分野を拡大することが課題である。
- ・研修会などを通し、組織的に体罰防止、いじめ防止に取り組んだことで、今年度も、体罰、いじめと認定できる事例は存在しなかった。
- ・年度後半に太陽光発電設備を設置・稼働することができた。次年度に向け、この設備も活用しながら、節電・省エネルギーを学校全体に意識させることが課題である。

2 数値目標

	目 標 内 容	27年度実績	28年度目標	28年度実績
1	国公立 MARCH 現役合格者数	125 人	130 人	87 人
2	部活動参加者数	96 %	98 %	96 %
3	部活動・都ベスト 32 以上の成果	8 部	8 部	9 部
4	学校生活満足度	87.6%	90 %	87.3%
5	授業満足度	84.8%	85 %	83.1%
6	補習・補講満足度	74.5%	80 %	72.1%
7	自宅学習時間 (2 学年後半)	71 分	80 分	55 分
8	ホームページ1日アクセス数	766 回	800 回	928 回
9	募集倍率 推薦	2.09 倍	3.00 倍	2.81 倍
10	募集倍率 一般	1.21 倍	1.40 倍	1.32 倍
11	来校者 体育大会	614 人	700 人	845 人
12	来校者 清高祭	3065 人	3200 人	3343 人
13	来校者 学校説明会	2242 人	2500 人	2560 人
14	図書貸し出し数	2041 冊	2200 冊	1385 冊
15	教員授業参観回数	149 回	200 回	196 回
16	夏期講習 講座数	47 講座	50 講座	58 講座
17	夏期講習 参加者数	1211 人	1500 人	3240 人
18	冬期講習 講座数	6 講座	10 講座	7 講座
19	冬期講習 参加生徒数	277 人	300 人	124 人